ISSN 0388－5569
VOL. 16 No. 3
（通巻48号）
1995. 12

Library News

山口大学附属図書館報

目次

次期附属図書館システムの導入について …… 1
「附属図書館の利用と資料に関するアンケート調査」集計結果 …… 2
本学関係教官寄贈図書 …… 5
お知らせ …… 5
インターネットを介した文献検索 …… 6
「資源」の有効利用を目指して …… 7
人事異動 …… 10
日誌 …… 10

次期附属図書館システムの導入について

平成７年度から、従前の本学情報処理センターが総合情報処理センターとして格上げされたことに伴い、同センターの電算機システムが更新され、次期附属図書館システムも、本学電算機システムの一環として構築されることになっております。

このため、附属図書館では、利用者の利便性、効率的な運用、事務の省力化等を考慮しつつ、なおかつ教育・研究に支障を生じない様なシステムの導入を考えております。

つきましては、新たに導入予定の図書システムの特徴及び稼働スケジュール等について検討を重ねておりますが、現時点での状況をお知らせ致します。

まず稼働開始時期についてですが、平成８年１月上旬を予定しております。

次に機器構成ですが、ホストマシーンはＮＥＣのユニックスサーバＵＰ4800／610で、メモリー256ＭＢ、磁気ディスク装置27ＧＢ、ディスクアレイ装置8.3ＧＢの性能があります

また中央館には、ＯＰＡＣ用サーバＥＷＳ4800／310ＰＸ　１台、業務用サーバＥＷＳ4800／310ＰＸ　５台、医学部分館と工学部分館に各２台の業務用サーバを配置し、それぞれ11台、４台、４台の計19台のカラーＸ端末を接続してホストマシーンとの通信を行います。

なお利用者用端末として、それぞれ８台、３台、３台のパソコンＰＣ－9821Xe10／４を配置し、所蔵検索等の用に供して頂く予定にしております。

続いてソフトウェアですが、図書館業務用ソフトウェアは、原則として機種と同一メーカのパッケージソフトを使用する予定ですが、不都合な部分については一部改造を加える事にしております。

このパッケージソフトは、12のサブシステムから構成されており、図書館の殆どすべてを含んだソフトとなっています。

それらを列挙しますと図書受入サブシステム、雑誌受入サブシステム、製本サブシステム、受入共通サブシステム、書誌コントロールサブシステム、所蔵管理サブシステム、閲覧管理サブシステム、文献貸借／複写サブシステム、利用者用検索サブシステム、コミニュケーションサービスサブシステム、帳票管理サブシステム、共通管理サブシステムとなります。

利用者の方々に関係の深いサブシステムは、閲覧管理、文献貸借／複写、利用者用検索などですが、これらについての詳細は、別の機会にゆずりたいと思います。

なお電子計算機システムが更新されることにより、以下のように業務が変更になる予定です。

・所蔵情報検索（ＯＰＡＣ）について

現在、所蔵情報検索は、図書館まで出向かないと検索が出来ませんが、新システム導入後は、図書館内は勿論各研究室等のパソコンを学内ＬＡＮに接続することにより、その場で所蔵情報の検索が可能になります。

また、医学部、工学部の各分館で所蔵している図書情報も同様に検索が可能になります。

ただし、現在各館で提供している検索システムとは、操作方法に一部違いがあるため、利用者に対して講習会等を開催し、利用の普及に努める必要があります。

講習会の日程等については、追ってお知らせ致します。

・研究室貸出について

現在は、整理済み後、各研究室等に整理済通知書にて連絡の後、来館して頂き貸出票に受領印を押印後図書カード（図書のみ）と共に図書及び雑誌の引き渡しをしています。

新システム導入後は、各研究室等に整理済通知書（全点リスト）にて連絡の後、受領の際には、整理済通知書を持参していただき、その整理済通知書と図書を照合し、電算機により貸し出し登録を行った後に、図書の引き渡しを行います。その際の受領印の押印は省略させていただきます。

また現在の図書カードは原則として廃止する事とし、カードに代わりカード原稿となるスリップを添付します。

なお前述の事につきましては、山口地区の中央館に於いての取り扱いですので、工学部・医学部の各分館につきましては、決まり次第お知らせいたします。

最後に利用者の方々へのお願いですが、システム更新に伴う不都合な部分がございましたら、図書館までご意見、ご要望をお寄せください。

より良いシステムを目指して、可能な限り対応をしてゆきたいと考えております。 **情報サービス課**

『附属図書館の利用と資料に関するアンケート調査』集計結果

附属図書館（本館）では去る８月21日～９月９日の間、入館学生を対象に無作為抽出によるアンケート調査をおこないました。

調査の目的は、学生の利用状況と図書館の資料とサービスに対する評価を把握し、図書館の運営と利用者サービスの改善を進めるための基礎的なデータとするためです。

調査は、アンケート用紙を図書館員が入館学生に無作為に手渡し、退館時に回収箱により回収する方法によりおこないました。回答総数は684で、有効回答は674通でした。その内訳はＱ１の表の通りです。

集計結果は以下の通りですが、ここでは詳細な分析は次回に譲ることとし、各設問とも集計数値（合計）のみを記載しました。ご協力いただいた皆さんに感謝いたします。

Ｑ１　あなたのことについてお聞かせください。（学部、身分、年次を表にまとめた）　（単位　人）

学部＼所属	１　年　次	２　年　次	３　年　次	４　年　次	5～6年次及び院生	合　　計
人　　文	19	36	31	31	4	121
教　　育	21	21	46	41	5	134
経　　済	48	34	40	37	4	163
理	19	23	32	41	10	125
農	14	8	10	11	11	54
医	17	5	1	1	0	24
工	45	2	5	1	0	53
合　　計	183	129	165	163	34	674

Q 2 あなたはどの程度、図書館を利用していますか？

ほとんど毎日	53	月１回	48
週に２～３回	212	年に数回	57
週１回	128	ほとんど利用しない	＊19
月２～３回	157		

＊この調査は、入館者のみを対象としたものであるので、「ほとんど利用しない」学生の実数及び比率を示すものではない。

Q 3 図書館を利用する主な目的は何ですか？（複数回答可）

図書館備え付けの資料（図書や雑誌など）を利用してのレポート作成や発表準備など	501	授業の合間のひまつぶし	89
試験準備など自習のため	481	文献複写をする	67
講義やゼミなどに関連した資料を調べる	281	目録やＣＤ－ＲＯＭを使って文献検索をする	51
新聞・雑誌などの軽読書をする	129	視聴覚資料を利用する	16
教養や趣味などの資料を調べる	109	無回答	1

Q 4 あなたは、どの様なきっかけで資料を探すことが多いですか？

レポートや講義のテーマに合うもの	547	友人のすすめ	26
図書や雑誌論文の参考文献欄	98	広告や書評	17
教官の紹介やすいせん	59	無回答	39

Q 5 図書館の資料で良く利用するものは何ですか？（複数回答可）

専門図書（授業や専攻に直結した学習用図書）	581	教養雑誌	33
事典、辞書類	154	ＣＤ－ＲＯＭ	12
教養図書（趣味、娯楽、教養のための図書）	129	視聴覚資料（ビデオ、カセットなど）	8
専門雑誌	81	目録、索引類	7
新聞類（縮刷版を含む）	77	無回答	47
年鑑、白書、統計類	36		

Q 6 本館では大学図書館として必要な資料は充実していると思いますか？

	良く揃っている	比較的揃っている	普通	あまり揃っていない	全く揃っていない
専門図書	56	185	190	152	16
教養図書	33	109	269	112	12
事典・辞書類	69	133	278	67	2
年鑑・白書・統計	64	121	272	32	2
新聞類	132	140	214	24	2
専門雑誌	39	118	242	100	10
教養雑誌	26	93	291	80	1
目録・索引類	34	71	319	43	2
視聴覚資料	21	59	271	82	17
ＣＤ－ＲＯＭ	21	58	283	65	7

無回答 63

Q 7 あなたは、目的の資料が図書館で入手出来なかったときはどうしていますか？

他の図書館を利用する	245	他の大学の図書館等から取り寄せてもらう	43
あきらめる	178	図書館に購入を請求する	20
自分で購入する	153	その他	2
研究室貸出のものがあれば借りに行く	100	無回答 45	
友人にあたる	76		

Q 8 図書館備え付けの資料について、不満な点があれば下表の該当欄に○を記入してください（複数回答可）

	数が少ない	新しい資料が少ない	分野毎に資料が偏っている	複本が少ない	破損・汚損がひどい
専門図書	128	229	55	96	64
教養図書	79	72	48	34	27
事典・辞書類	43	47	25	22	36
年鑑・白書・統計	22	33	26	18	6
新聞類	19	13	16	10	2
専門雑誌	68	28	32	13	4
教養雑誌	50	26	24	9	3
目録・索引類	15	15	17	9	3
視聴覚資料	47	20	16	10	2
CD－ROM	37	13	17	8	1

無回答 171

Q 9 あなたが今後、特に充実してほしい資料は何ですか？ （三つ以内選択）

専門図書	484	年鑑、白書、統計類	42
教養図書	223	CD－ROM	39
専門雑誌	184	新聞類	32
事典・辞書類	130	目録、索引類	22
教養雑誌	107	その他	7
視聴覚資料	59	無回答 83	

Q10 あなたは、図書館の次のサービスを利用したことがありますか？

	利用したことがある	知っているが利用したことはない	知らなかった
貸出中の資料の予約	28	258	308
本学にない資料を他大学の図書館等から借りたり、文献コピーを取り寄せる	50	350	202
レファレンス・サービス（図書館の利用や資料の検索や調査についての相談）	109	259	226
他大学の図書館の「利用願」の発行	10	222	370
視聴覚コーナーの利用	61	387	151
CD－ROMによる検索	168	295	154

無回答 56

Q11 あなたは、端末機によるオンライン目録検索（ＯＰＡＣ）を使ったことがありますか？

使ったことがある	312	→	わかりやすい	40
			普通	213
			わかりにくい	59
使ったことがない	316	→	使い方がわからない	193
			あることを知らなかった	123
無回答	39			

Q12 あなたは、図書館報「Library News」を読んでいますか？

毎号読んでいる	13	あることを知らなかった	201
時々読んでいる	195	無回答	49
読んでいない	209		

◇

本学関係教官寄贈図書 （受入順）

［本　館］

藤岡　豊（元教育学部教授）

・佐波川水系の生物総合調査報告書　藤岡豊［ほか］著　山口大学　1977

谷光　太郎（経済学部教授）

・アルフレッド・マハン：孤高の提督　谷光太郎著　野中郁次郎解説　白桃書房　1990

鹿江　雅光（農学部教授）

・獣医伝染病学　第４版　鹿江雅光［ほか］編　近代出版　1995

伊豆　大和（教養部教授）

・「偉大なギャツビー」を読む：夢の限界　リチャード・リーハン著　伊豆大和訳　旺史社　1995

石津　眞子（人文・理学部研究協力係）

・人権を守る人々：英国の冤罪事件と救援運動：ルポルタージュ英国版　播磨信義著　法律文化社　1995

［医学部］

西嶋　敬子（医学部附属病院看護部長）

・人工呼吸器装着患者の看護　廣川臨床看護シリーズ15　西嶋敬子編　石川多賀子ほか執筆　広川書店　1994

お知らせ

学外文献複写について

学術情報センターが、平成７年12月20日（水）～８年１月８日（月）までサービスを休止いたします。この間はオンラインでの申し込みが不可能になるため、12月中旬からの申し込みは入手が遅くなりますのでご了承願います。

相互協力係

インターネットを介した文献検索（Ⅰ）

甲 斐 綾 子

日々成長していく情報化社会の中で、文献検索の方法も大きく変化して来ました。図書館に行って分厚く重たい Chem. Ab. を一つ一つ引いて文献を調べる時代は過去のものとなりつつあります。
私自身、これはこれで意味のあることだと思っていますが、今回導入されたFirstSearchのように便利で安価な方法があれば、こちらの方が主流になって行くのは自然な事でしょう。

それでは、実際にFirstSearchを使用して感じた利点を簡単に述べてみましょう。

①便利：インターネットを使って、休日夜間を問わず自由な時間に自分の研究室から文献検索できる。②安価：無料の辞書ファイル機能が付いているのでキーワードの事前調査ができ、このため検索式を絞り込むことが可能、これによって、一回の検索（約150円）で目的を達せられる場合が多い。また、検索によりヒットした文献にはアブストラクトも付いており、これを含めたすべての情報のコピーは無料。したがって、ＤＩＡＬＯＧよりもはるかにお得。③情報量：データベースが豊富（95年４月現在52）で、新しい（私はＩＮＳＰＥＣを利用しているが、これは毎週更新されている）。
④簡単：操作が簡単でわかりやすい、etc.

一方、欠点としては、現在のところ1980年代以前のデータが無いので、古い文献を検索したい場合には使えないということがあげられます。

FirstSearchだけでなく、他にも文献検索の方法は様々あります。すべての方法を試したわけではありませんので、これがベストだとはいえませんが、私は今のところ満足しています。加入者が多くなれば、現在の１サーチ150円から更に安くなるということですから、興味のある方は一度試してみてはいかがでしょうか？

また、余談ですが、文献検索後の文献複写依頼がＷＷＷサイト（試行中）でできるようになって本当に便利になりました。

様々なサービスを提供してくださる図書館員の方々の努力に感謝していることを最後に付け加えておきたいと思います。

（工学部　講師）

インターネットを介した文献検索（Ⅱ）

守 田　　了

研究に関する先端の情報をいち早く知ることは重要です。最近は計算機上で文献を検索する便利なツールができてきました。

ＮＡＣＳＩＳ－ＩＲは、国内所蔵の図書や雑誌を検索したり、特定のデータベースから雑誌論文を検索するには便利ですが、データベースのの数は多くありません。

CurrentContentsは、最新の雑誌論文の情報は手に入る反面、工学部図書館ではスタンドアロンで運用されているために、いちいち図書館に行かなくてはならず、仕事が煩雑になります。

FirstSearchは、50を越えるデータベースがネットワーク上で安価に提供されているので、研究室の計算機から自由にアクセスできます。さらに便利なのは、ネットワークを介して手に入れた文献情報を自分にメールを出すことによって、計算機上に保存することができる点です。また、検索した文献を手に入れたい場合には、図書館のＷＷＷホームページ（試行中）を利用して複写を依頼することもできます。

こうして、研究室から文献を検索したり、複写を依頼することが簡単にできるため、とても便利です。

これらのシステムの導入は、図書館の職員の努力によって成立しています。お世話になっている図書館の方々には、いつも感謝しています。今後ともよろしくお願いします。

（工学部　講師）

「資源」の有効利用を目指して

保坂雅子

はじめに

私は平成6年12月に山口大学附属図書館に転任してきたばかりで、山口大学のことはあまり知りませんでした。ところが、先頃9月に岡山市で開かれた中国四国地区大学図書館研究集会に出席し、意見を発表するということになりました。「何を言ってもいいから。」ということだったので軽い気持ちで引き受け、「資源」という観点から図書館を見てみようと考えました。

さて、いざ準備を始め、資料を読んだり周りの人から話を聞いたりしていると、人に意見を言うにしては何も知らないで仕事をしていたんだなということがわかって、情けなくなりました。ここに記すことはその時の発表の要旨です。内容はともかくとして、自分なりに意見をまとめることによって、自分の仕事、職場について少しは問題意識を持って考えるようになったと思います。このような機会を与えていただいてよかったなと思っています。

資源1 「お金」

「お金」ときいて図書館員の頭にまず浮かぶのは、図書館に配架する学生用図書費をいかにして賄うかという問題ではないでしょうか。山口大学では、中央図書館に置く学生用図書について、現在年に一度教官に選定してもらっている分に加え、主として基本的な学習用図書を整備するために学内的に予算を確保しようとしています。そのため今年度に入ってから、他大学の予算獲得の実態を調査したり、学生からアンケートをとったりしました。

講義で使用する図書を複数冊図書館に置き、利用してもらう指定図書制度は、予算の都合等の問題があって多くの大学で採用されていません。また、図書館には専任の教官がいないため、図書館の立場から発言する教官がおらず、図書館の意見は大学全体ではあまり重視されていません。長い間、大学図書館の学習用図書不足の問題は、図書館員の間では全国共通の大問題でありましたが、大学全体ではほとんど議論されてきていませんでした。

このような状況を変えるためには、大学の所蔵する学生用図書の評価が大学評価において重要視されるような世論づくりを図書館が率先して行うことが必要でしょう。最近では様々な大学評価に関する本が出されていますが、私が見たところ量的な評価基準はあっても質を測る基準は確立されていないようです。困ったことに、量的な評価だけでは古くなって価値のさがった図書でもとりあえず置いておけば評価が下がらないため、新しく図書を購入しなくても問題となりません。質的な評価を行うことは能力の問題もあって、単独では難しいかもしれませんが、図書館としては是非実施して行かなければならないことだと思います。

次に最近の問題としては、いわゆる電子メディアへのアクセス費が挙げられます。例えば、ネットワーク対応型ＣＤ－ＲＯＭの導入にあたっては、スタンドアローン型と比べて金額が急激に増大した上に、利用者がより特定されにくくなりました。そのため現在、費用分担の調整の問題がでてきています。将来的には利用の可能性はあっても、当面予定がないといった人たちに対して、費用の負担をお願いするのは確かに無理な話でしょう。しかし、大学として購入した物の費用負担はきちんとしたルールに基づいて公平に行わなければなりません。利用実績はだんだんと変わっていくものですが、図書館がきちんとした調査を続けていくことは、費用分担方法（どんな方法を採るにせよ）を決める参考となることと思います。

今後、有料の電子ジャーナル等が登場してくることが予想されていますが、そうなれば図書館が大学を代表して利用代金を支払うといったケースは今までよりずっと増えるでしょう。アクセス費の問題は研究室単位でなく大学全体で考えなければならない時期に入ってきているのかもしれません。

その他、限られた予算を有効に活用するために、使用する予算を減らす工夫も必要です。例えば、購読雑誌の重複を解消するというのはどうでしょうか。現在、吉田地区では5カ所以上で重複して購入している雑誌が27誌もあります。もちろん雑誌は速報性が命ですから、到着後すぐに見なければあまり役に立ちません。しかし、購入しているすべての雑誌について、すべての記事を至急読破しなければならないということはほとんどないでしょう。おそらく目次をみて、1、2の記事に目を通すだけで用が足りることのほうが多いと思います。図書館の側では、

コンテンツシートサービス、ドキュメントデリバリーサービス等を行った上で、新規購読の希望がでてきた際には、その旨を伝え再考を促す等きめの細かいサービスを続けていく必要があるでしょう。お互いに限られた予算を有効に使っていけたらよいと思います。

資源2 「情 報」

「情報の流通」という点では、インターネットを通じて、大学どころか国境を越えて様々な情報にアクセスするということが可能となってきています。しかし「情報の共有化」という点では意識上、制度上でまだまだ厚い壁があるように私には思えます。

例えば学内では、研究室所蔵図書の利用について壁があります。研究室所蔵図書は教官の研究費で購入した図書ですから、貸出の対象ではないといってしまえばそれまでです。けれども、各研究者が必要とするすべての資料をすべて購入するのは予算の無駄遣いです。また、自分の研究費を持たない学生にしてみれば不可能な話です。一方、図書館に配架されていない限り自由に利用できないこととなれば、図書費はいくらあっても足りないでしょう。一時的な利用、または調査のために、同じ大学の他の教官が所蔵している図書を利用させてもらうことは、大学の構成員すべてにとって、決して損をする話ではないはずです。

中央図書館では，現在利用者からの申し出には臨機応変に対応しています。学生からの依頼にも電話連絡をするなどして取り次ぎをしています。たいていの場合断られることはないようですが、いつも順調というわけでもないようです。今後は、所蔵している教官の事情を優先しながらも、教官と利用者の間に立って、貸出請求があれば研究室から図書を取り寄せるなどのサービス向上を図ると共に、返却についても責任を持つ等、貸借に関する問題を減らしていけたら良いと思います。オンラインで蔵書目録を学外へ公開することが全国で進んでいますが、情報だけ公開されていても、いざ必要というときに利用できなければあまり意味がないので、研究室所蔵図書についてはまずは学内から、利用しやすい環境を整備していく努力が必要でしょう。

また今まであまり重視されなかったことかもしれませんが、個々の大学が発信する情報に、その大学の図書館が積極的に関与できたらよいと考えます。個々の大学が発信する情報とは、具体的には紀要類の論文を指します。まず第一段階としては網羅的に収集保存をすること、次に第二段階としては、現在一部の大学で始まっている、目次速報データベースの入力を進めることです。この入力作業は大変手の掛かる物のようですが、将来、編集の段階でデータを集めて、全文データベースを構築することが可能となれば入力作業は全く必要でなくなるそうです。

ちなみに、中央図書館の場合、本学発行の紀要類については欠号についても随時寄贈依頼していて、収集については努力しています。しかし、目次速報データベースの入力については未着手で、今後の課題となっています。

最後に、早ければよいというものではありませんが、一般的にいって情報は「スピードが命」といわれています。サービス面に限らず管理面でも、スピード化を図ることは大切でしょう。例えば図書の発注から配架までの流れについて考えてみましょう。現在、中央図書館では教官が購入請求票に記入して、図書館に持ってきてから発注業務が始まります。重複調査、書店への発注、到着の確認等、この作業では請求票を組み込んだり拾ったりを繰り返すため結構な時間がかかってしまいます。来年度からは発注の時点でコンピューターに入力するため、請求票の組込み作業は減りますが、購入の意思を確認するという意味もあって、請求票自体は廃止されません。しかし将来的に学内ＬＡＮに接続する教官が増えれば、購入請求票を廃止して、メール等を利用して購入請求を受け、そのデータを加工して即時に書店への発注を行い、受入、支払いがスムーズに進むようになるかもしれません。

管理面で最近改善されてきていることとしては、外国雑誌の受け付け業務を省力化する自動チェックインシステムが挙げられます。このシステムは書店が雑誌と一緒に納入データも納入するというもので、実は中央図書館でも来年度からの導入を予定しています。今すぐに冊子体の雑誌が無くなるということは期待できないので、外国雑誌だけでなく他の出版物についても、また納入だけでなくその他の管理面についてもどんどん省力化を図っていって、スピードアップを図らなければと思います。

資源3 「人」

３番目に「人」という問題について、自分がどういう図書館員になりたいか、ということを中心に考えてみました。

私は未だ管理部門でしか働いたことがないのですが、将来はサービス部門で、利用者から頼りにされ

る図書館員になりたいと考えています。しかし、今の私にはそれだけの力がないので、今の内にたくさん勉強しておこうと思っています。業務を通じて学ぶことはたくさんあるとは思いますが、落ちついて、一歩下がって考えられると言う理由から、図書館の先輩や他分野の専門家による研修をどんどん実施してほしいと思います。研修の内容としては、現在は目録業務に関することがほとんどですがそれにとどまらず、レファレンス関係、語学関係、コンピューター関係、会計業務関係その他図書館業務全般にわたっていることが望ましいと思います。

司書の資格を取ったらその後は個人の問題というのではなく、随時教育訓練の機会を設けて大学図書館で働く図書館員としてふさわしい基礎的な能力を皆が身につけられるようにしてほしいものです。その上で各人が得意の分野を持って、それぞれの分野でのエキスパートを目指せばいいのです。

又、大学の中で働いている限りは大学職員でもあるのですから、事務サイドの常識といったものについても身につけていきたいと思います。図書館にいると、外とのつながりがあまりないため、つい独自のやり方で仕事を進めがちですが、外の事情を知ったならば、もっと簡単にできることがあるかもしれません。逆に図書館員としては事務文書や資料の整理、収集、情報提供等の面で協力することができると思います。

最　後　に

これからの大学図書館は、学生を主な利用者とした、きちんと選ばれた基本資料と参考資料により構成された学習図書館を目指していくべきでしょう。もちろん、すべての資料がそこにある必要はありません。むしろ、図書館に行けば次にどうしたらよいか知ることができるという状態にしておくことの方が大切だと思います。

サービスシステムは窓口を一箇所にします。そのためにも、図書館員はみんながすべての業務に精通していることが求められます。そして、研究室で情報収集活動ができるようになった教官にとっては、本や雑誌を取りに行かなければならない場所でなく、図書館員に用事のあるときに行く場所となってほしいものです。と同時に、端末と向かい合っているだけでは情報収集活動は終わらないでしょうからサロンとしての場所を提供してはどうでしょうか。

場所の提供は、今までも実施していましたが、ほとんど利用されていませんでした。利用を増やすには魅力ある場所を提供することが必要です。せっかくの図書館なのですから、資料を持ち込めるようにしたり、電話やファックス、パソコンを設置したり、喫茶室を置く等、考えればいろいろなサービスが提供できるはずです。もちろん開館時間はなるべく長い方がよいでしょう。

また、図書館が主催して公開講座等を実施しているところもあります。司書課程に関する科目だけでなく、教官に協力してもらってでも、このような活動はどんどんやっていきたいと思っています。ただ、会場を提供するだけでなく、生涯学習の場として大学図書館はもっと活躍しなければならないのです。大学教育の場でも、様々な専門課程の学生に対して、役に立つ情報としての図書館学の講義が行われるようになればおもしろいのではないかと思います。

私は図書館員とは8時半から5時までのルーティンワークだけでは説明しきれない、もっと自由な職業であると思っています。学術研究の世界においてなにかの役に立っているという実感を持つためも、早く今までの「仕事」から解放されて、もう少し創造的な仕事をする職業に変わっていく必要があるでしょう。とはいっても、現実には一日の大半を手足を動かしていなければならず、落ちついて考える時間はほとんどの図書館員にはありません。けれども私たちが日々努力していくことで、20年位後には図書館が大学になくてはならない場所として機能するようになることを信じて、頑張っていかなければと思っています。

（本館受入係・旧姓　森）

人事異動

［配置換］（7．10．1）佐古艶子　情報管理課受入係（情報管理課目録係から）
山本貞子　情報管理課目録係（情報管理課受入係から）
大沢恵子　情報サービス課運用係（情報サービス課相互協力係から）
三好恒光　情報サービス課相互協力係（情報サービス課運用係から）
［転　任］（7．12．1）渡壁辰巳　情報サービス課運用係（岡山大学附属図書館資源生物科学研究所分館から）

日誌

（平成7年9月～11月）

［本　館］

9．12～14　第36回中国四国地区大学図書館研究集会（岡山）　森受入係員・中川運用係員
9．26　第2回図書館情報システム化推進委員会
10．2～4　目録システム地域講習会（広島大）　赤野目録係員
10．5～6　第8回国立大学図書館協議会シンポジウム（吹田市）　河﨑情報管理課長
10．5～6　ＩＬＬシステム地域講習会（広島大）　河本相互協力係員
10．6　山口県図書館協会大学・短大・高専部会研修会（山口東京理科大）　安田専門員他5名
10．12～13　平成7年度国立大学図書館協議会中国四国地区協議会実務者会議（高知）
萬代総務係長・吉光受入係長
10．23　第71回附属図書館運営委員会及第41回本館図書委員会
10．24～25　平成7年度学術情報センター・シンポジウム（草津市）　安田専門員
11．15　大学ＮＥＣ，Ｃ＆Ｃシステムユーザー研究会（福岡大学）　吉光受入係長・赤野目録係員
11．22　山口県図書館協会参考業務研究部会　サービス課より3名
11．30　第42回附属図書館本館図書委員会

［医学部分館］

9．7～8　ＭＥＤＬＩＮＥ検索講習会
10．20　日本医学図書館協会評議会（東邦大学）　上田整理係長
10．26～27　日本医学図書館協会中国四国部会総会（川崎医科大学）　吉野運用係長
11．7　医学部分館図書委員会

［工学部分館］

9．4　文献検索講習会
9．22　持ち回り図書・研究報告委員会
11．7　図書・研究報告委員会

訂正とお詫び

前号（Vol.16　No.2）10頁の「平成7年度附属図書館関係各種委員会名簿」中、◇運営委員会と◇工学部分館図書・研究報告委員会のところで粟井郁雄委員のお名前が、栗井郁雄と印刷されました。
失礼をお詫び申し上げますとともに、ご訂正下さるようお願いいたします。

編集・発行　山口大学附属図書館　〒753 山口市大字吉田　電話（0839）22－6111 内線 788